

D 更新・後始末

1. 更新の支援

主伐は一つの区切りですが、そこで森の歴史が終わるわけではありません。むしろ、伐採によって次の森林の再生が始まります。伐出作業によって跡地が荒れ、その後の森林の再生が妨げられてしまうことがないように努めましょう。

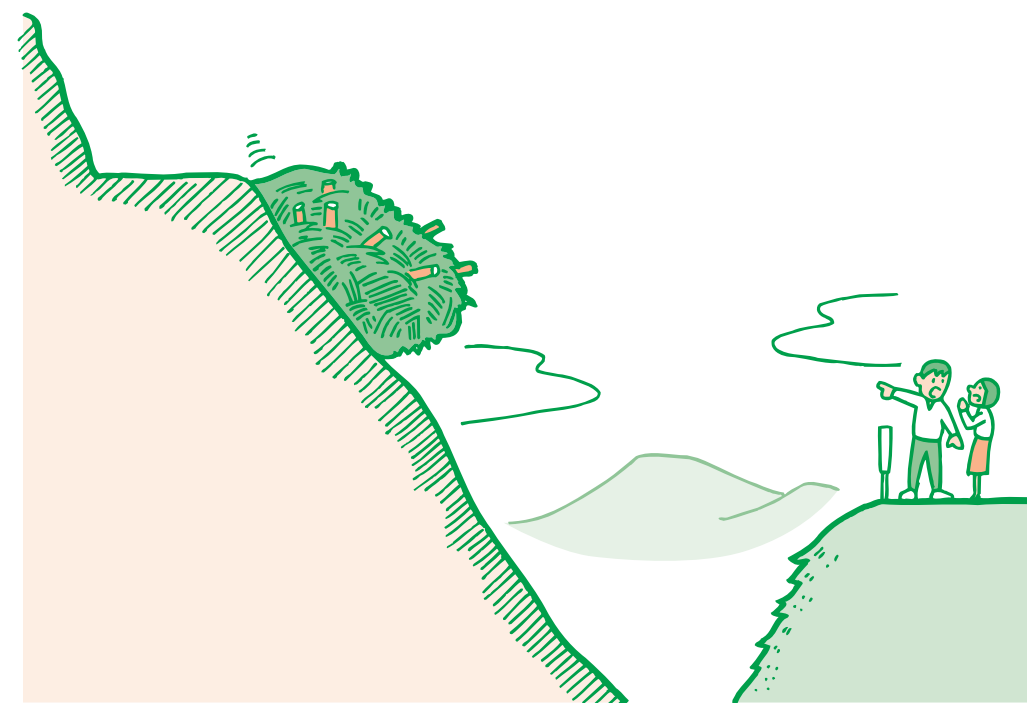
- 天然更新が予定されている場合は、伐採や集材の際に広葉樹の稚樹をできるだけ傷つけないようにします。
- 造林が予定されている場合は、地拵えの手間が省けるように枝条残材の整理に努めます。
- 伐採から地拵え、植林までをトータルで効率よく行えるように、自社で一貫して引き受けるか、造林事業者との連携体制を築いておくことが効果的です。



2. 枝条残材、廃棄物の処理

枝条残材は土砂崩れを引き起こしかねないものですから、置き方には注意します。外から持ち込んだ廃棄物は、タバコの吸い殻一本たりとも残さず、全て持ち帰りましょう。

- 枝条残材の置き場所や置き方は、大雨の時に谷川に流れ出したり、雨水が貯まる堰となって崩れたりしないように注意します。
- 巨大な枝条残材の山積みは景観上も好ましくないため避けます。
- それ以外の資材や廃油など、持ち込んだものは全て持ち帰ります。



3. 路網・土場の後始末

作業終了後には、道や土場を補修し、壊れにくくするための仕上げをしましょう。道作りは、これによってようやく完了すると考えるべきです。

- 一度の伐採のためだけの道や土場は、埋め戻すなどして、崩れにくく、また植生が回復しやすいように処理をします。
- 伐採後も残す道や土場は、作業終了後に荒れたところを補修します。また、溝切りや敷き砂利、外カント処理などをして、最後の仕上げをします。
- 運材のトラックによる道路の破損は、必要に応じて補修を行います。